

Corporate Social Responsibility

CSRの取り組み

基本的な考え方

野村グループ倫理規程
http://www.nomuraholdings.com/jp/company/basic/ethics.html

野村グループは企業市民としての社会的責任を果たすために、社会的課題に積極的に取り組んでいます。企業の社会的責任(CSR)活動の適切な推進と管理は、企業価値を維持・向上するために重要です。CSRに関する基本的な方針は、「野村グループ倫理規程」と「経営の基本方針」で定められています。また、2015年11月に制定したコーポレート・ガバナンス・ガイドラインにおいても、事業活動を通じて証券市場の発展に貢献するとともに、金融・経済教育をはじめとしたCSR活動に積極的に取り組む旨を定めています。

創業の精神

野村グループは、創業以来、常に社会の発展に貢献することを心がけてきました。創業者である野村徳七の時代から続く「創業の精神」の実践こそ、野村グループが果たすべき企業の社会的責任(CSR)であると考えています。

事業活動の拠り所としての「創業の精神」

創業の精神と野村の歴史
http://www.nomuraholdings.com/jp/company/basic/

「創業の精神十カ条」

「あらゆる投資に関して最高のサービスを提供する」という事業活動を通じて、豊かな社会の創造に貢献することが、創業以来の私たちの変わらぬ精神であり、野村グループの存在価値かつ社会的責任です。

- 一、野村グループの存在意義
「証券報国こそは野村證券の職域奉公の実体にして、あくまでもこれを貫徹すべく」
- 二、顧客第一の精神
「自己の利益よりも顧客の利益を先にす」
- 三、海外への雄飛
「君たちの将来には、世界の飛躍が待っている」
- 四、調査・分析の重視
「凡ての証券に就いて、その本質に就いての研究を科学的になすべき責任がある」
- 五、先取りの精神
「常に一歩前進することを心がけよ。停止は退歩を意味する」
- 六、企業家精神
「企業家は、七割方の科学的確実性を握ったならば、それでもって、あとの三割の不確実を、突飛し飛躍するだけの勇気がなければならぬ」
- 七、人材の登用
「人材を養ふこと、有為の人物を蓄へ、適材を適所に配することは、寧ろ資本力以上の大なる財産であることを強調して参りました」
- 八、チームワークの重視
「各部各係は各々責任を以て事に當り、幹部は身を以て之を率い、店主の統制下に協力一致打って一団と成り」
- 九、業務推進の心構え
「敢然として我等は我等の信ずる道に向かって鋭意奮進すべきである」
- 十、サービスの心構え
「単に取引を行へば任務終れりとする如き器械的勞務を為すのみならば、必ずしも各位の力を待たずして可なり」



創業者 野村 徳七

CSRの実行プロセス

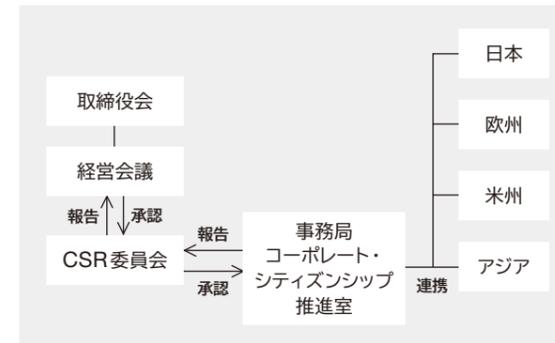
野村グループにおけるCSR重要課題
http://www.nomuraholdings.com/jp/csr/group/

CSR活動推進体制

経営レベルでCSRにかかわる意思決定を行い、グループ全体でCSRを推進していくために、CSR委員会を設置しています。委員会は、グループCEOから委任を受けた

委員長を含むグループの役員7名で構成され、CSRに関する方針の策定や活動の承認・決定などを行います。委員会の活動は、取締役会および経営会議に適宜報告されます。なお2017年3月期は、CSR委員会を1回開催しました。

推進体制



重要課題の抽出とPDCA

2014年に当グループのCSR重要課題について、第三者機関の意見を反映するとともに、社内部署へのヒアリング、CSR委員の確認のもと、見直しを行いました。見直しのプロセスでは、まず、外部環境として、GRIガイドライン(第4版)、サステナビリティ会計基準評議会(SASB)などのサステナビリティ情報開示基準や日本版スチュワードシップ・コードの分析を行いました。内部環境として「野村

グループ倫理規程」やCSRの考え方などの分析を行い、これらをもとに、当グループにとっての課題を洗い出しました。次に、洗い出した課題について、国内外の代表的なSRI(社会的責任投資)機関の評価項目より「ステークホルダーにおける重要度」を評価し、「当グループにおける重要度」については、社内へのヒアリングや「経営の基本方針」などを反映して課題の優先順位づけを行いました。この2軸の評価をもとに「マテリアリティ・マトリックス」を作成し、ステークホルダーと当グループにおける重要度がともに高い項目について、CSRの重要課題を特定しました。また2017年3月期は、この重要課題とSDGs*との関連性について整理しました。今後、SDGsをはじめステークホルダーの視点を組み込んだCSR活動を通じ、社会課題の解決や持続的発展に向けた取り組みを進め、長期的な企業価値向上につなげていきます。

*SDGs: 2015年9月の国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発目標」



CSR重要課題

CSR重要課題	内容	指標	SDGs
コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスの強化 CSRマネジメント	P48 P76	16 平和と公正をすべての人に
リスク・マネジメント	リスク管理体制の整備・強化 財務の健全性と透明性の確保 業務のレジリエンス 環境・社会リスクへの対応	P64 P66 P69 P66	13 気候変動に具体的な対策を
コンプライアンス	法令遵守と違反の報告 公正な金融取引の徹底 贈収賄の防止 マネー・ローndリングの防止	P71 P71 P71 P71	10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に
健全かつ持続可能な資本市場への貢献	高品質な金融サービスの提供 環境・社会的課題に対応する商品・サービスの提供 顧客保護と情報セキュリティ 金融リテラシーの向上	P71 P78 P71 P32	1 貧困をなくそう 5 ジェンダー平等を實現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう
持続可能な地域社会への貢献	グローバルでの取り組み ステークホルダーとのコミュニケーション	P80 P80	10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナーシップで目標を達成しよう
多様性を尊重した人材の育成	人材育成 ダイバーシティ&インクルージョン 働きやすい職場環境の整備 人権の尊重	P74 P75 P75 P75	5 ジェンダー平等を實現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう